会報
白日会
第58号
記念展特別号
2019.10
白日会事務所

白日会事務所
〒一〇四―〇〇三二　東京都中央区八丁堀四―二―八―二〇二
TEL（〇三）六二八〇―五二一八（FAX兼）
郵便振込　〇〇一九―四―三九八一五七　白　日　会
HP: http://www.hakujitsu.com
MAIL: hakujitsu-mail@trad.ocn.ne.jp

白日会第九十五回記念展

3月20日から4月1日にかけ、国立新美術館（2A・2B・2C・2D）において白日会第九十五回記念展が開催されました。記念行事として特別陳列―白日会中興の祖　伊藤清永展―を併催いたしました。

祝賀会・会長挨拶

中山忠彦

中山忠彦会長

本日、多くのご来賓をお迎えして、ここに盛大な祝賀会を開けました事は、私ども白日会にとりまして誠に喜ばしい事でございます。

大正13年に第一回展を三越で開催いたしました。その時の代表的な方々は、中沢弘光、川島理一郎その他16名の方々でございました。

白日会といいますのは、本来大変自由な団体でございまして、当時のメンバーをみますと、官展系あり在野系あり、混在した団体であります。その気風は現在まで引き続いており、会の自由さといいますのは特に束縛も何も無く、皆さん方和気藹々と切磋琢磨して今日に至っております。

それらの中から、過去力のある作家が生まれ、特に伊藤清永先生が中興の祖として今、会の歴史の中で言われておりますけども、私が伊藤先生のお宅に内弟子としてご厄介になった白日会の30回展の頃は、一番の低迷期といいましょうか、夜な夜な会の幹部の方々が伊藤先生のお宅に集まって、会の存続を話し合っておりました。

ただ、幸いな事に、清永先生が45歳、その3、4年後に日展の審査員として迎えられました。その頃からようやく白日会にも光が当たり始めたと言いましょうか、ある意味審査員がいるいないでは、当時の日展傘下団体であった白日会としては大きな問題であります。そのおかげでだんだんと上向きになり、その後、日展には出品をしない野田弘志はじめ、深澤孝哉といった方々が参加して、白日会はハイブリット構成と言いますか、そのような形で発展し今日を支えて参りました。

伊藤清永先生の方針は、白日会はとにかく若い世代を大切にしようと言うことで、現在は、明日の白日会展を夏に毎年、高島屋さんの御好意で会場を提供して頂き、それに会員選抜展という形で三越さんにお世話になって毎年暮れに開催しております。

そのような若い力を察する目の高さ、それを白日会の一番の基本としながら清永先生は終生情熱を注いでおられた、つまりそういう意味では白日会の中興の祖として、誠に力のある先生でございました。

▲上野精養軒にて行われた祝賀会

今回の会場を皆さん方ご覧頂くと思いますけども、つまり伊藤清永先生の特別陳列を記念事業としていたしました。会場は光線の状態が見事に工夫されて、あの光線の状態の中で見る清永先生の作品は非常に深い光をもって、始めは一般と同じような光線にした所、色の美しさが見えてこない、ハレーションを起こしたような状態でしか見えてこないという事から、斎藤秀夫君が急遽機転をきかせあのような光線の状態にした。

それで実にいい会場になったなと思います。あの光でみる清永先生のあのまとまった作品の華麗さ、重厚さといったものはまるでキャンバスの所から光を発しているような作品に見えた事は確かでございます。

それで少し欲を出して、我々の部屋でもそういうことをやってみようというふうな事を考えたのですが、何しろ照明の数がとても足りるもんじゃない、という事で今回は諦めたのですが、第5室の部屋だけ5％照度を落としてやってみました所、それでも色が少しは見えてくる、あの通常の光の明るさの為に作品が見えなかったものが、照度を落としただけで作品として見えてくるということは、今後私どもが参考にしなければならないとそういう風に考えております。

白日会の中で、若い力が続々

育ってきているということは、事務所がまとめてくれたデータでは、一般の入選者、推挙者、授賞者、そういった若い方々が70％以上を占めている。これは白日会の財産でございます。この若さをもって、今後そう遠からぬ百年展を目指して、私どもが精力を集中し、精進をしてまいらねばと思っております。その為には、皆様の厳しくも温かいお力添えが必要でもあります。

申し遅れましたが、伊藤清永先生の展覧会の今回の作品に関しては、豊岡市の市長中貝宗治様の過分のお力添えを頂きました。そのおかげでこのような展覧が記念事業として出来た次第でございます。

深く感謝を申し上げたいと思います。

私どもは近々百年展を迎えます。百年展に向かって全精力を注いで参りたいと思っておりますが、その為には更なる皆様方のお力添えが必要です。宜しくお願い申し上げます。

簡単でございますけれどもご挨拶に代えさせて頂きます。有り難うございました。

第九十五回記念展報告

第九十五回記念展が、平成31年（2019）3月20日（水）から4月1日（月）の12日間に渡り開催されました。本記念展は「―白日会中興の祖　伊藤清永展―」の特別陳列を中心に、ここ数年に渡る様々な行事やイベントが総合化されて施行されました。今回の様な大規模記念展は東京都美術館での第75回記念展の「オッド・ネルドルム展」以来20年ぶりの大型展であり、特別陳列は第80回記念展の「草創期の作家達展」以来でした。また、この15年間～20年間の中、絵画部だけをとりあげれば会員の40％～50％が入れ替わっています。本展運営の主任さん他のほとんどの方々が新しいメンバーで施行する大規模記念展となりました。また第九十五回記念展は100周年記念展を5年後に睨むものとして、記念展とは単に式典行事の施行のみならず、その施行と同時に、過去を顕彰し、本道を問い、未来に向けての指針を得てそれに応じた施策を行うなど、表に見えるものと見えないものの整備を行うという方針で進められました。（別にホームページとデータベースの刷新等を行いました。）

特別陳列 ―白日会中興の祖 伊藤清永展―

「特別陳列―白日会中興の祖伊藤清永展―」は、95回展リーフレットでの中山会長の挨拶文（2室会場・図録・目録に掲載）の通り、会の若手に伊藤芸術と対峙してもらうこと、また対外的には伊藤芸術の再評価を趣旨としたこの特別陳列は、内外共に好評を得、中には深い感動を得たとしてチケットを買い直して複数回足を運んだ鑑賞者もあったと聞き及んでいます。

▶特別陳列の会場風景

▲奥の休憩室を伊藤先生の資料室とした

作品を貸し出して下さった美術館で、特に兵庫県立美術館は貸し出しが日本一厳しい美術館として有名で、任意団体の白日会への作品貸与に至ったことは画期的であり全国でも初めてであったそうです。他作品を貸与して下さった各美術館、個人や法人への交渉他、斎藤秀夫常任委員と伊藤晴子常任委員、神山晃一会員が担当にあたりました。

美術館からの作品貸与は、学芸員による搬入搬出の安全管理や展示時の警備体制の万全等の条件があり、豊岡市と「豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―」から全面的な協力を得て共催として施行されました。

本年度の審査と展示

審査状況は目録・図録・会場パネル・ホームページで公開されています。絵画部での一般入選は、今年は厳選となる審査会となり90名程の落選者がありました。現代で落選者のある団体は少ないと聞いています。また応募者数と入選者数の両方を公開している団体は数える程しかありません。

公募団体展の本義はなんと言っても「審査と展示」にあります。94回展では絵画部において部屋割りと陳列に新機軸の部屋割りブロック制と常任委員によるブロック担当制とし、本記念展に継承発展しました。またここ数年一般出品者のレベルが上がり、第九十五回記念展は美術界で知名度もある方の出品もあり、白日会の水準と審査・展示の公正は、安心して出品でき

る美術公募団体としての認知も進んできているようです。本記念展は伊藤先生の特別陳列だけでなく、会全体の展示発表の外部評価も高かったと聞き及んでいます。

結果、本記念展は東京展において2万人近くとなり、戦後最高の入場者数となりました。

開会式

初日3月20日（水）9時45分より、新美術館2A入口のロビーにて、記念展の開会式が行われました。中山忠彦会長のご挨拶に続き、豊岡市長中貝宗治様の代理として、豊岡市副市長の森田敏幸様にお言葉を頂きました。その後、深澤孝哉副会長を加え三名で厳かにテープカットが行われ第九十五回記念展が開会しました。

授賞式と祝賀会

今年は3月20日（水）が初日となり、3月21日（木）の祭日に授賞式並びに記念式典と祝賀会が上野精養軒で行われ、共に盛況を博しました。

▲深澤副会長から八咫烏賞を授与される中山会長

記念式典と祝賀会では、当会が日ごろ大変お世話になっております多くのご来賓とご招待の方々のご出席を頂きました。中山忠彦会長の挨拶に始まり、評論家の瀧悌三先生のご挨拶、洋画家で立軌会代表の笠井誠一先生のご挨拶と乾杯のご発声から祝賀会の場となりました。その後、工芸家で文化庁長官の宮田亮平先生（作家としてご出席）、ノーベル賞受賞者の大村智先生、東京スカイツリーのデザイン監修をされた彫刻家の澄川喜一先生、洋画家の佐々木豊先生よりお話を頂きました。

新規の施策を盛り込みながら、第九十五回記念展に相応しく、また当会らしい祝典となったのではないかと思います。

ミニ解説会とギャラリートーク

94回展より絵画部で「毎日がギャラリートーク」という趣向で、常任委員と審査員を中心に行われる「ミニ解説会」が95回展も継承され、好評を博しています。

3月23日（土）にはジュディ・オング倩玉会員による伊藤先生特陳部屋での2回にわたるトークショウが行われ、大変好評を博しました。

3月24日（日）は、絵画部を深澤孝哉副会長、彫刻部を山本眞輔常任委員により、恒例の「ギャラリートーク」が開催され盛況を博しました。

▲ジュディ・オング倩玉会員のギャラリートーク

公開クロッキー講座

今年4回目となる美術館講堂にての「公開クロッキー講座」が、3月28日（木）に開催されました。中山会長の小講演に始まり、絵画部から、広田稔、岡田髙弘、大友義博各常任委員、関口雅文会員、和田直樹会員、彫刻部から勝野眞言会員、江藤望会員の7名の実演解説、司会を中谷晃常任委員により、最後は会長とモデルさんと出演者による座談会にて、第2回よりの午前と午後の2部構成で開催され、毎年大盛況を博し続けています。なお新美術館講堂が満杯となるイベントは滅多に無いとのことを聞いております。

「公開クロッキー講座」はその全てがYouTube映像となって全国的（世界的）に発信されています。（95回展の映像は現在編集中）絵画と彫刻のファインアートの美術公募団体として基幹となる「人体デッサン」を核としたこのライブイベントは、美術公募団体初の取組みであったと同時に、当会が研究団体として比類ない正当な美術団体であることの証明と表現になっています。また「明日の白日会展」「三越会員選抜展」でも派生型の公開クロッキーを昨年度より開催し、今年度も行う予定です。髙島屋さんと三越さんからもかなりのご好評を頂き、是非継続をとのことです。

▶公開クロッキー講座にて
岡田髙弘常任委員による実演

インターネットYOUTUBE映像発信

同じく92回展より始まりましたYouTube映像の発信は、当会に関する、さらには美術や芸術に関する、歴史と系譜と筋道を明らかにすると同時に、当会の心棒と筋道たる理念の表出を映像作品としましたのは美術

公募団体初の取組みでした。（白日会ホームページから入れます）

95回展では「伊藤清永展」会場にて、3月20日初日の閉場後第2室の特別陳列室を使用して「伊藤清永先生を語るVol.2（仮題）」の撮影が行われました。映像化は秋から冬を予定しております。これらインターネットを使用した映像による表現と発信は、高齢者には対象となる方は少ないかもしれませんが、巡回展以外の当会の全国認知を促し、研究団体としての成果と水準を発信する全国展開活動の一つとなっています。

なお95回展の記念品として、「中山先生若手と語るVol.2」「伊藤清永先生を語る」「公開クロッキー講座Vol.3」の三枚組のＤＶＤを制作し、会友以上の構成員と祝賀会来賓招待者（欠席者含む）に配布しました。時にあらためて視聴すれば、その都度新しい発見がある内容と思います。（なお記念品ＤＶＤは一部外販しておりますので、購入希望の方は白日会ホームページをご参照ください。）

八咫烏賞

本記念展に新しく設置されました「八咫烏賞」は、他団体の中枢の方々の興味も引き、高齢化した公募団体の中で長年に渡り会に貢献された方々の顕彰に思案していたところ大変参考になったとの感想を頂いています。白日会が若手の会と思っていたところに意外であり、また非常に好感を持ったとのことです。内部的には経年の中で人員も大きく入れ替わっていたこともあり、あらためて古くから当会を支えた方々の再認識となりました。（本会報にて「八咫烏賞受賞者の言葉」を掲載しています。）

巡回展報告

名古屋展

中部支部長　竹内　恵

平成31年4月9日㈫～14日㈰

愛知県美術館ギャラリー

昨年は、会場の知名度も低く（電気文化会館5Ｆ東西ギャラリー）、その他の事情もあって、入場者が大きく減少しました。今回は、美術館特有の一般の美術愛好家の流れがあり有料入場者も増え、全体の入場者も例年並みに戻りました。

初日に、愛知学院大学講堂の伊藤清永先生制作壁画の鑑賞会を行い、会長、副会長を始め、多数の常任委員の先生のご参加をいただきました。

中部地区は、高齢化が進み、一般応募者も徐々に減りつつある中で、若手に実力を備えた者が増え、展覧会の人気も高まっております。中部での知名度が上がっていることを実感いたします。

※報告書の一部を抜粋

関西展

関西支部長　児玉　健二

令和元年6月12日㈬～6月17日㈪

あべのハルカス近鉄本店ウイング館8Ｆ

近鉄アート館

第95回記念白日会関西展は、近鉄百貨店開催30周年記念でもありました。今回最も懸念されていた会場改修による展示面積減少への対処は、巡回・受賞以外の支部出品者を二分して前期・後期各々3日間展示という方策を支部総会で提案、決定しました。

総会や議事録での説明が行届かなかった一部の支部員からは戸惑いの声もあったものの、大きな混乱もなく、展示替えも支部員のみで順調に完了することができました。とはいえ入場者数が予想を下回ったことは、分割展示による展覧会への案内や告知に対する支部員のモチベーションの低下が要因ではないかと思われます。しかし会期中には展示に対する数多くの好評をいただきましたので、前向きな対応を検討します。

技術革新による社会構造の変化は、社会がより創造的な人間を求めるようになると言われているにもかかわらず美術教育の軽視が進む中、私たちは今こそ若年層に働きかける施策の実施が課題です。関西展では子供たちの作品を公募・展示する企画を新たに立ち上げる準備を進めてまいります。

※報告書の一部を抜粋

選抜展報告

◆近鉄会員選抜展　平成30年6月

あべのハルカス近鉄本店（公式選抜展）

◆白日会デッサン展　平成30年11月

銀座　永井画廊（準公式選抜展）

◆三越会員選抜展　平成30年12月

日本橋三越本店（公式選抜展）

◆明日の白日会展　令和元年8月

日本橋髙島屋（公式選抜展）

記念展に向けて、ほぼ数年がかりの様々な事業を結集し、またバックヤードの仕事に従事し様々な工夫と粘り強い努力を行った会員他諸氏、外部関係の様々な方々のご協力を得て、中山会長を中心に会全体を挙げて今回の第九十五回記念展が開催されました。この第九十五回記念展を契機に、先達の志を具現しながら、さらなる発展を目指しつつ新世代への継承も踏まえながら、１００周年に向かい、皆さんと一丸となって進み行く5年間となればと思います。

なお、本会報より今後Ａ4カラーといたし、現代に合わせると同時に内容のさらなる充実を図りました。このこともまた記念展施策の一つです。

白日会事務所員・常任委員　寺久保　文宣

第九十五回記念展　受賞者推挙者一覧

特別賞

内閣総理大臣賞　寺久保　文宣（絵画）埼玉
文部科学大臣賞　冨所　龍人（絵画）新潟
損保ジャパン日本興亜美術財団賞
長谷川　晶子（絵画）千葉
中沢賞　牧内　則雄（絵画）愛知
富田賞　松本　実桜（絵画）神奈川
吉田賞　柏原　花子（彫刻）東京
伊藤賞　大友　義博（絵画）東京
平松賞　青島　紀三雄（絵画）静岡
第九十五回記念展賞　深澤　孝哉（絵画）静岡
第九十五回記念展賞　佐藤　順一（彫刻）千葉

会賞

白日賞　ヤダ　シンタロウ（絵画）埼玉
（副賞ホルベイン賞）
白日賞　原　太一（絵画）千葉
（副賞クサカベ賞）
白日賞　中島　あけみ（絵画）東京
（副賞マツダ賞）
準会員奨励賞　亀山　裕昭（絵画）千葉
準会員奨励賞　宮本　久子（彫刻）福岡
準会員奨励賞　西沢　明比児（彫刻）長野
会友奨励賞　津絵　太陽（絵画）東京
会友奨励賞　吉間　春樹（絵画）千葉
一般佳作賞　藤森　直樹（絵画）千葉
一般佳作賞　マキノロラン（絵画）山形
一般佳作賞　村上　豊（絵画）兵庫
一般佳作賞　山本　周（絵画）大阪
一般佳作賞　福田　菜月（彫刻）東京
一般佳作賞　コルドバッチェ・マンスール（彫刻）東京

法人寄託賞

梅田画廊賞　吉成　浩昭（絵画）東京
アートもりもと賞　藤井　佳奈（絵画）熊本
関西画廊賞　中道　佐江（絵画）京都
大宥美術賞　原　太一（絵画）千葉
美岳画廊賞　有川　利郎（絵画）埼玉
オンワードギャラリー賞
光元　昭弘（絵画）神奈川
ギャラリー大井賞　阿部　良広（絵画）京都
瀧川画廊賞　阪東　佳代（絵画）奈良
ギャラリーアーク賞　亀山　裕昭（絵画）千葉

八咫烏賞（特別賞）

当会が会章とする導きの烏である八咫烏の名を冠する敢闘功労賞。会友推挙時から連続50年在籍した会員・準会員・会友の全ての者に対し、当会にて長年にわたり研鑽を重ね健闘し、当会を導き支え続けてきたことを称え、授与される。※第95回記念展では、新賞として第45回展以前に会友推挙以上となった全ての在籍者に授与される。

推挙回展

柴田　祐作　25回展（絵画）千葉
伊藤　利行　26回展（絵画）埼玉
黒澤　信男　29回展（絵画）東京
中村　晋也　31回展（彫刻）鹿児島
中山　忠彦　32回展（絵画）千葉
石井　勤　34回展（絵画）茨城
乙黒　久　34回展（絵画）埼玉
西川加耶子　35回展（絵画）東京
河田　安市　36回展（絵画）徳島
草壁　隆　36回展（絵画）愛知
堂園　和男　36回展（絵画）宮崎
矢田　智子　36回展（絵画）神奈川
峯田　義郎　36回展（彫刻）山形
亀井　禎子　38回展（絵画）神奈川
山本　眞輔　38回展（彫刻）愛知
石倉　豊　39回展（絵画）三重
城田　美子　40回展（絵画）神奈川
岩渕　一憲　41回展（絵画）青森
岡田三枝子　41回展（絵画）埼玉
小沢　一廣　41回展（絵画）茨城
佐野　源次　42回展（絵画）埼玉
鈴木　正子　42回展（絵画）神奈川
石原　昌一　42回展（彫刻）熊本
佐多　透　43回展（彫刻）神奈川
溝口　守一　43回展（彫刻）鹿児島
奥村　憲　44回展（絵画）長野
犀川　愛子　44回展（絵画）福岡
中村　泰子　44回展（絵画）愛知
宮﨑　郁夫　44回展（絵画）埼玉
斎藤　秀夫　45回展（絵画）東京
笹岡　弓子　45回展（絵画）東京
茂又　好文　45回展（絵画）東京

●会員推挙

【絵画】

有川　義明　神奈川
石井　博　栃木
今利　美咲　熊本
小川　浩　神奈川
沖津　達也　山形
納　義純　神奈川
金沢　湧洙　大阪
金森　まり　東京
亀山　裕昭　千葉
近藤　昌徳　大分
佐山　朋子　東京
三箇　大介　兵庫
島﨑　英子　埼玉
城田　美子　神奈川
菅野　宗武　茨城
髙柳　剛士　長野
田中　利枝　神奈川
谷口　明　大阪
徳田　明子　東京
長坂　誠　広島
平林　昇　神奈川
福永　美佐子　熊本
藤原　修身　山梨
堀山　義孝　三重
松尾　文隆　大阪
松本　実桜　神奈川
三原　準二　愛媛
山下　光子　千葉
山下　百合子　三重
樽井　美波　長野
宮本　久子　福岡

●準会員推挙

【絵画】

安藤　千恵子　愛知
乾　房子　静岡
緒方　かな子　広島
沖津　信也　山形
尾崎　浩美　京都
菊地　敏廣　愛知
小出　義久　長野
金野　圭助　神奈川
斎藤　靖彦　栃木
柴田　治　宮城
杉若　秋津　愛知
住井　ますみ　広島
田中　孝知　京都
津絵　太陽　東京
手嶌　かよ　三重
沼尻　康之　神奈川
馬場　圓　大阪
丸山　孝子　東京
港井　里佳　千葉
三村　稔　愛知
向井　正義　広島

【彫刻】

該当者なし

●会友推挙

【絵画】

植野　綾　熊本
植村　千尋　三重
小野　月世　東京
川畑　昭子　宮崎
観音堂　満代　茨城
栗原　政幸　千葉
米谷　花織里　和歌山
佐伯　弘子　千葉
佐木　義輝　大阪
谷口　友惟　愛知
友清　大介　東京
中道　佐江　京都
中村　キミ子　宮崎
原　太一　千葉
藤森　直樹　千葉
星野　典子　群馬
南　建　東京
村上　豊　兵庫
八木　誠一　静岡
ヤダシンタロウ　埼玉
山根　かほる　山形
コルドバッチェ・マンスール　東京
山下　洋平　鹿児島

【彫刻】

特別賞審査員

内閣総理大臣賞　瀧　悌三先生
文部科学大臣賞　土方　明司先生

受賞作品紹介

特別賞

内閣総理大臣賞　寺久保文宣

ECHO ―赤の室内―

文部科学大臣賞　冨所龍人

待ち人

損保ジャパン日本興亜美術財団賞　長谷川晶子

木漏れ日の中で

中沢賞　牧内則雄

唐子にチワワ

富田賞　松本実桜

めざめを待つ

吉田賞　柏原花子

時の流れ

伊藤賞　大友義博

心そよぐ

平松賞　青島紀三雄

陽光

会賞

第九十五回記念展賞　深澤孝哉

城跡の見える丘（トルコ）

第九十五回記念展賞　佐藤順一

東風吹かば

白日賞　ヤダシンタロウ

黄昏の中の風景 /yuriage20110329

白日賞　大宥美術賞　原太一

旅の空

白日賞　中島あけみ

想

準会員奨励賞　ギャラリーアーク賞　亀山裕昭

残響

準会員奨励賞　宮本久子

この春に

準会員奨励賞　西沢明比児

龍骨城V

会友奨励賞　津絵太陽

このそら、このつち。

会友奨励賞　吉間春樹

Stella

一般佳作賞　藤森直樹

I氏の時間

一般佳作賞　マキノロラン

黎明の予感

一般佳作賞　村上豊

それぞれの雨

一般佳作賞　山本周

Innocent World

一般佳作賞　コルドバッチェ・マンスール

見つめ合う

アートもりもと賞　藤井佳奈

乙女は煌めきの中に

Zimmer 306

法人寄託賞

梅田画廊賞　吉成浩昭

一般佳作賞　福田菜月

啓蟄

オンワードギャラリー賞　光元昭弘

余白の創造…君と願い

瀧川画廊賞　阪東佳代

鼓動

美岳画廊賞　有川利郎

小夜中の夢・虧月

関西画廊賞　中道佐江

Alice

26回展推挙　伊藤利行

九十九里片貝海岸

八咫烏賞（特別賞）※推挙年順

25回展推挙　柴田祐作

小野川河岸通り

ギャラリー大井賞　阿部良広

悲の地

32回展推挙　中山忠彦

アネモネのある部屋

31回展推挙　中村晋也

「御地蔵の」
（御地蔵の 手に据え給う 蛙かな　一茶）

29回展推挙　黒澤信男

池畔春雪（新宿御苑）

35回展推挙　西川加耶子

楽しい時間

34回展推挙　乙黒久

白州・甲斐駒

34回展推挙　石井勤

裏磐梯冬景

36回展推挙　堂園和男

ベニス運河の朝

36回展推挙　草壁隆

白いバレリーナ（POSE）

36回展推挙　河田安市

早春の朝

38回展推挙　亀井禎子

藤花満開

36回展推挙　峯田義郎

ひとりだけの午後

36回展推挙　矢田智子

希望

40回展推挙　城田美子

ベゴニアの園

39回展推挙　石倉豊

夏、アトリエの一隅

38回展推挙　山本眞輔

心の旅―トレドの光の中で―

42回展推挙　鈴木正子

初夏のオストーニ

41回展推挙　小沢一廣

水郷の湖畔

41回展推挙　岡田三枝子

路地

44回展推挙　奥村憲

明光中央アルプスの里・早春

43回展推挙　溝口守一

男の首

42回展推挙　石原昌一

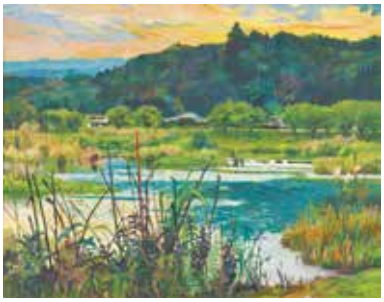
手

44回展推挙　宮﨑郁夫

机上の静物

44回展推挙　中村泰子

花



44回展推挙　犀川愛子

風薫る陽

45回展推挙　茂又好文

舟屋

九十五回展不出品の八咫烏賞受賞者

岩渕一憲（絵画）41 回展推挙
佐野源次（絵画）42 回展推挙
佐多　透（彫刻）43 回展推挙

45回展推挙　笹岡弓子

ラナンキュラスに魅せられて

45回展推挙　斎藤秀夫

赤い服の女

八咫烏賞　受賞者の言葉

第九十五回記念展より新設された八咫烏賞（在籍50年）受賞者の皆様へ、受賞にあたり思い思いの内容でと、ご寄稿をお願いしました。32名の受賞者の内14名の方々からの文章が寄せられました。

乙黒久　34回展　会友推挙

「追想・広本了先生」

戦後間も無く上京して池袋の小学校教師になった。四年ほど経過した頃、近くの医院に掛けてある油絵に見惚れたのが縁で広本了先生のアトリエへお邪魔できる幸運を得た。

先生は白日会の客員のような身分であったらしく昭和十六年には、もう上野美術館の三室常連として出品されていたのを知ったのはずっと後のことである。

荒廃した戦後の街も急速に回復しつつあった。私と白日会との縁結びが叶ったのは昭和三十一年の初出品ということになる。八年くらいかけて会員になれたが、何の取りえもない身だから下働きに徹しようと決めて、謄写版の早摺りなどで専ら入選者発表事務の手伝いなどをして過ごした。

広本先生は本当に穏やかな人柄であった。いわゆる美校出の秀才だと聞いたが助言をしてくださる時も実に穏やかで鋭さは感じさせず、大きな声を聞いたことも無かった。私の父と同年配くらいかと思ったがそれを正すことも無く過ぎてしまった。

程なく私も転校するようになり池袋から離れ、板橋の住居も移転した。申し訳ないが先生にお会いする回数も減らざるをえなかった。

担任教師を続けながらデパートで作品発表が出来るまでに漕ぎつけた。何回か続けた頃、広本先生との二人展を思い立ち先生にお願いした。紆余曲折もあったが何とか承諾して頂いた。結果は大好評で胸を撫で下ろした。来場して下さった伊藤先生から「いいことをしてくれた」と声をかけていただいたのを今でも忘れない。

二人展が終わった後、広本了先生から「世話になった。何かお礼をしたい」と言われた。そんな気遣いはいりませんと断ったが聞いて下さらない。ふと思い出したのは客間で目にした掛軸に使う細長い紙に書かれた何枚かの先生の筆跡である。先生の絵も好きだが墨跡もいい。杜甫の《国破山河在城春草木深》と続く句に了書と書き入れた署名のある紙のうち一枚を頂きたいとお願いした。その時の先生の苦笑いが目に浮かぶ。

この筆跡も頂いたが、結局は一人娘の肖像を描いて頂いて落着した。

昭和五十六年の正月、父が死んだ。同じ年の七月、広本先生も亡くなられた。

遺族は女性ばかりだった。伊藤先生から「取り仕切りは君がやるほか無いだろう」と言われて面食らった。どんな手順で、どんな話をしたのか、今では全く思い出せない。

終りに一番書き残したい事に触れる。細かい経過は忘れたが、白日会の基本的な賞状の筆跡は広本了先生のものである。西川先生の雄渾な『白日会』と並んで『賞状』の文字も永遠であって欲しいと願っている。

※広本了先生の筆跡による賞状。
昭和を平成に改めて92回展まで使用していた。

※乙黒先生の寄稿により初めて広本先生のご筆跡と知りました。3年前に「白日展」か「白日会展」かの表記統一の問題が出まして、常任委員会での審議のもと、現在は新しいものになっています。業者の筆耕とは違う、大変趣のある筆跡であり歴史も感じますので、何か良い方法を用いて広本先生の筆跡の賞状継続の再検討をしてみます。

白日会事務所

西川加耶子　35回展　会友推挙

「今思う事」

まだ学生だった頃、平松譲先生のお導きにより三十二回白日展に初出品したのが白日会にご縁の出来た始まりでした。以来60年余り、欲もなく、従って勉強もせず、沢山の良き先輩方に恵まれて居心地よく過ごしてきました。

会期中の事務所は個性的な先輩方のお話を聞く絶好のチャンスでした。バケツで冷やしたビールや同時期に展覧会の別の会から頂いた一升瓶お祝いの、のし紙がついたお酒が会から会を行き来して。その勢いでウソかまことか、沢山の雑学をお聞きできました。若い私にはとても

刺激的でした。懐かしい沢山の先輩方、思い出は色々ありますが、若い皆さんに知っておいていただきたいことそれは事務所の仕事の事です。

今、パソコンの時代になりすっかり何もかも変わりました。昔、私、平松譲先生、柳沢淑郎先生の事務所の時お手伝いをしました。あの頃は先生の家のアトリエに事務所の荷物を運びこんでそこで事務一切の仕事が行われたのです。

まず始めることは今日送る会員へのお知らせを作る事です。鉄版に鉄筆で蝋引きの紙に一字一字、字を刻みそれを謄写版に張り付けてローラーにインクをつけて一枚一枚手刷りするのです。この鉄筆で字を書くという仕事はとても技術を要し誰でも出来ることではありません。その仕事を乙黒久先生が一人で引き受けていられ、まず先生のカリカリする鉄筆の音から仕事が始まるのです。その間に他の人は一通一通封筒に宛名書きです。人数は少なかったとはいえ大変なことでした。今でも乙黒先生が鉄筆で一生懸命書かれる姿が目に浮かびます。

今、白日会はますますの発展をつづけています。沢山の先輩たちが戦争を含めた時代の波に翻弄されながら誠実に会を育てたという事を若い方々にちょっとでいいから考えていただきたい。

最後に年寄りの自慢話です。

私、中沢弘光先生を知っています。お話もしました。写真も一緒に写しました。会の創設者を知っているという方が何人いられるか。

河田 安市　36回展　会友推挙

「八咫烏賞を拝受して」

私は白日会でお世話になって60年になりました。初出品は昭和35年第36回展、22才でした。研究団体白日会は、当時、伊藤清永先生が会長でした。私は白日会で勉強したいと出品しました。

研究会では、作品のレベルアップを目指しての批評会があり、先生方が指導、助言をして下さり、地方では気付けないことでした。

現在も研究会は続いていて、白日会は、有難いと感謝しております。

作品の批評は委ねて、自分は佳くも、悪くも、一生懸命に、完走したいと思います。

有難度うご座居ました。

◀河田安市（右）と息子さんで白日会会員の河田純（左）
※写真提供・河田安市

草壁 隆　36回展　会友推挙

「名古屋巡回展の始まり」

私が白日会の故岩月光金先生に出会ったのは昭和三十年だった。先生の指導で白日会へ初出品したのは、裸婦デッサンを始めてから4年目だった。

それ以後は描きたい・知りたいという気持ちが渇望状態だったので、伊藤清永先生が来名された折に岩月先生に連れられて旅館でお会いし、話を聞き指導を受けたことなどが思い出される。

昭和三十八年に会員に推挙され、その年に第6回改組日展に初入選となった。同じ日展会場に棟方志功（評議員）が出品していたことを後で知り感激した。当時白日会の事務所を担当されていた村上鉄太郎先生から入選激励のハガキをいただいたが、翌年から出品しなかったので上京したとき「期待していたのに何やっているんだ」と叱られた。以後の自分は白日会に出品するだけで精一杯だった。

そんな頃、白日会の巡回展を名古屋で開催する話が出て、伊藤清永、岩月光金両先生から会場を確保してほしいと云われた。私と山田英平（四十四年退会）が申し込みをしたところ「本年からグループ展には貸さないことになった、中央で公募した団体展の巡回展以外は出来ません」と云われた。

いくら説明しても、今までグループ展の申し込み者であった私たちの申し込みを聞き入れてくれなかった。美術館側は白日会を知らなかったのだ。再三の申し込みで、東京本展の目録を持参し説明した。「白日会史」が載っているので、これでやっと判ってもらえた。「このような歴史ある団体とは知らず失礼しました」という言葉に安堵した。

昭和三十九年、白日会第四十周年から名古屋巡回展が実現した。巡回作品は上層部作家と自発的参加者以外の作品は、私達名古屋の若手出品者が東京展懇親会（旧東京都美術館食堂）において一人一人に話しかけ出品依頼して集めたものがかなりあった。巡回作品が本部選抜と

なったのは数年後だった。

（以上は小生のホームページに掲載した手記「私と白日会」の冒頭部分を要約したものです。読んでいただければ幸いです）

矢田 智子　36回展　会友推挙

「八咫烏賞をいただいて」

第95回白日会記念展に新設された八咫烏賞をいただいたことは、身にあまる光栄ですし、そんなに長い間絵を描いていたとは信じられない気持ちです。私は大学生の時、初出品初入選しましたが、その後出産、子育て、アメリカでの生活をし白日会には長い間出品していませんでした。現在の白日会は、めざましい発展で中山先生をはじめ素晴らしい先輩方がいらして、中間には日本画壇を担う実力のある方達がいて、近年では若い新しい人達が続き優秀な目をみはるような作品が多く、世間の人からもそれなりの評価を受けていると思います。

今では会期の懇親会は大きな会場で盛大におこなわれていますが、私が初めて参加した懇親会の会場は昔の都美術館の地下食堂でした。皆んなでロの字に座って並び、今のようにビュッフェスタイルで自由に歩きまわりおしゃべりしたりはなかったように思います。当時は伊藤清永先生はじめ中山先生、柳沢先生、伊藤利行先生方は若々しくそれぞれの才能でキラキラと輝いて独得の雰囲気がただよっていました。そのご様子に圧倒されながらオズオズとしていました。

私は、伯母が平松譲先生の同僚で知り合いであった関係で、平松先生がアトリエで小学生の絵画教室をなさっていたので、にぎやかな子供達の中に半子供がいれていただきました。アトリエにある先生のすがすがしい生き生きとした力強く大胆な美しい色彩の絵を拝見出来るだけで嬉しく大変な刺激になり幸せなことでした。そのうち30号、50号と描くようになり先生が所属してらした白日会に出品させていただきました。

それが初出品初入選で美術館の外壁に名前をはり出されました。とても嬉かったです。

2年目には御茶の水のニコライ堂を描き「さくら賞」のさくらクレパスをいただいたことを懐かしく思い出します。

絵のブランクは長かったのですがきら星のように沢山の美術館のあるボストンでの生活は快適でした。近所に絵を描くベルギー出身の老婦人がいらして毎週2人でボストン美術館、ハーバード大の美術館などなど見て歩きました。見事な名画に接し鑑賞出来たことは大きな収穫でした。その後だいぶたってからまた白日会に出品するようになりました。準会員からの再出発でした。なかなか実感がつかめず作品はひどいもので「継続は力なり」を身を持って実感しました。その後、細々と絵を描き続けていますがいつも反省点ばかりです。

体力、気力は衰えましたが「一生のうちで自分の思うように描けたらいいなー」という希望だけは持ち続け、今後もそれを目標に研鑽を重ねたいと思います。

亀井 禎子　38回展　会友推挙

「思い出すままに」

横浜には旭、保土ヶ谷、西の三区を通って流れる帷子川があり、下流の岸辺にはたくさんの工場が立ち並んでいて、スカーフの染色工場や精糖工場もその一つでした。

三十六回白日会初出品には、形と薄い鶯色の壁がきれいで、対岸に座って「春の精糖工場」を写生しました。八年後にもう一度「雪の日の精糖工場」を描きましたが、現在はそのあたりの風景もすっかり変わってしまっています。

高等学校を卒業して就職し、仕事に少し慣れた頃、職場から歩いて七分の所にあったYMCAの絵画グループ水曜会に入りました。夕方六時頃になると仕事を終えた若い人達が三三五五に集まり静物や人物を描くのですが、そこに水野富美夫先生が指導に来られていました。又エチオピアの留学生も何人かきていました。会の先輩達は既に何回か白日会に出品していました。三年位して初出品した時には、お仲間四、五人と共に先生に付添われて横浜の川島実先生や、東京の伊藤清永先生のお宅に伺い絵を見ていただいた記憶があります。

第一回横浜白日会展は一九六二年に神奈川新聞社の後援で開催され、男性二十一名、女性十六名の参加でその殆どが水曜会のメンバーでした。中沢弘光先生、伊藤清永先生、小堀進先生、平松譲先生、村上鉄太郎先生、東理次良先生、横須賀の川口栄先生が賛助出品して下さっています。

その後転勤や仕事の都合で水曜会は退会しましたが、横浜白日会にはずっと参加していました。

横浜白日会と神奈川白日会との合流については第三十回記念白日会神奈川支部三十年の歩み（一九九八年）に記載されていますので省略しますが、当時力を尽くして下さった歯科医の佐藤正先生始め、小知和謙一さん、須原幹雄さん達の御努力のおかげで川口栄先生のもと、白

日会神奈川支部が発足し、寺嶋健一先生、深澤孝哉先生、また野田弘志先生も参加して下さいました。支部長制も決まり初代に井上秀樹先生、湯山俊久先生、広田稔先生、熊澤真紀子先生と代わってこられましたが、どなたも支部の為に頑張って下さって現在に至っています。

エチオピアに行かれた水野富美夫先生はお元気で活躍されていて、一九七〇年の大阪万国博覧会のエチオピア館には先生の作品だけがたくさん飾られていました。然しながら、一九七四年のクーデターにより皇帝政権が崩れ新政権に代わるとその国にはお入りになれず、アフリカのケニアに滞在しておられ、一九九四年六月十九日に七十六才で現地で亡くなられたと御子息のお話でした。日本では四十日後に横浜の妙蓮寺で御葬儀が行われました。奥様は三人のお子様を育てていらっしゃいましたが、翌年先生の後を追うように亡くなられました。

神奈川支部活動では支部展のほか、鎌倉で八年間位小品展が開かれ、永野実さんのミノル画廊で発送事務などお世話になりました。

大事な活動としては研究会があり、中山忠彦会長と深澤孝哉副会長がお見え下さり、作品について丁寧で適切なご指導をいただいています。又、最初の頃、川崎にお住いだった渡辺茜先生のお教室で何回か日曜日に裸婦デッサン会を開いて下さった事もありました。

今年白日会は九十五回記念展を、又中興の祖であられる伊藤清永展を併せて開催され誠におめでとうございます。いつの間にか在籍五十七年になり八咫烏賞をいただきました。長くお世話になりながら一向に上達もせず、あまりお役にもたてませんでしたがこの会に入れていただいた事は私の人生にとって有難い経験であったと感謝しております。会がますます発展されます様祈望いたしますと共に、今は亡き多くの先生方やお仲間の方々にお礼の気持ちを込めて御冥福をお祈りいたします。

石倉 豊　39回展　会友推挙

「白日会と私」

この度、中山会長より、八咫烏賞の通知を受け光栄と感謝致します。白日会とは、エピソードは語り尽せない位多くあります。その一つは、地元の県立長島高校（今は廃校）一年に入学の時、当時、旧制尾鷲高校から転勤された、（故）森谷重夫先生（東京美術学校、現東京芸大）の指導から始まります。（当時、長高は定時制のみでした。）従って私は県立長高の一期生でして、市町村合併で隣の村や町から通学、しかも美術クラブは、三年生に一人で、誰もいませんでした。数名の生徒で、正式に美術クラブを発足させました。（文化系は極めて地味で、スポーツ系は、派手な存在でした。）当然長島高校は、地元の高校創りに町民、職員共々一生懸命でした。従って美術教室や体育館等もなくグラウンドも、旧二郷村小学校の跡地ですから凸凹のグラウンドでした。美術部の数名は、理科、社会等の準備室の一隅で、アグリッパとミロのヴィーナス、ブルータスの胸像のみでした。ここで、キャンソン紙と食パンと木炭で毎日デッサンでした。当時、森谷先生には小学三年と五年の娘さんがいて、紀伊長島駅近くの寄宿にて自転車で約十分位で通勤していました。従って教え子から画家を育成させるべく懸命に指導されました。

三年の夏休み、クラブ員に、上京し、阿佐ヶ谷の美術研究所で、石膏デッサンの修業に行って来いと命じました。当然国鉄の時代ですから……。上京するには大変な時代でした。

第二は、故伊藤清永先生の実の妹さんが、紀伊長島の仏光寺にいまして、伊藤先生の作品が、数点今も存在してます。私も美大を出て地元の中学に奉職し、その寺の長男（龍谷顕考）が、教え子の一人として存在してます。父兄会になると学校での個人面談では、後継者が出来て良かったですねの話題に終始しました。確か女の子は、杉並（成宗）の屋敷に下宿していたと思います。はからずも、阿佐ヶ谷美研でデッサン終了後都電で伊藤美術研究所にも通いました。伊藤先生と面接の時、「画家になるとは、何事だ！」と一括、「親不孝者、すぐ帰れ」でした。私自身、一人っ子で、しかも長男ですから、よく考えるとお袋の面倒をみなければと考え、多摩美大卒業後地元の中学校の先生をしたのでした。阿佐ヶ谷美研の時、確か隣に副会長深澤孝哉さんがいたのも、記憶にあります。

第三は、今は亡き中沢弘光先生、水彩の小堀進先生、広本了先生、村上鉄太郎先生（当時事務所）平松譲先生、笹口淳先生（事務所）さらには柳沢淑郎先生、古川弘先生等々、多くの思い出が脳裡を巡ります。今は亡き恩師森谷先生も、津郊外の安濃村の寺の息子でしてよく上野の旧都美術館で審査終了後上野界隈を呑みに連れてもらいました。

平成も終了しては、やっぱり学校の先生をしていて良かったと思っています。

九十五回記念展を祝し改めて諸先輩の先生方に感謝し合掌です。

城田 美子　40回展　会友推挙

「絵と私」

95周年おめでとうございます。絵を始めたのは、近所に女子美出身の先生が居られ、父母の勧めもあり習い始めました。学生時代には水彩、油絵、日本画、ポスター等を習い、スケッチ会に出たり、高校時代は市展出品、新聞カット等にも参加しました。高校時代に、教職員の講座にただ一人の高校生として指導を受けたのが白日会との最初の出合いでした。

横浜に来てからは友人に誘われて行ったのが、水野富美夫先生のグループでした。白日会に出品するチャンスに恵まれ、出品初めて、間もなく結婚し出産が続き思うように行かず悩んだ時期がありました。若い時の気持ちでいたかったので、旧姓を使ってます。水野先生を中心に横浜支部が出来、本部の先生方をお呼びして研究会があり、楽しい一時でした。作品をトラックに乗せ本展に、皆でお手伝いをしたり、懇親会では、先生方、全国の皆さんとお会い出来るのが楽しみでした。横浜研究会には伊藤清永先生、平松譲先生、柬理次良先生等、先生方の講評により皆一生懸命耳を傾け勉強して皆上手になった。水野先生がエチオピアに行かれ、それぞれになり、私は個展をしたり、その後、水野先生の弟子によるミマス会をつくり、今年40回展になります。川口先生中心の神奈川支部が出来、50回展が終わりました。仕事等の事情で白日会をやめた方も多いけど、画く事はやめていないので、毎年会う事が出来るのはうれしい一時です。気持ちが落ち込んだ時、趣味の絵があり、色々な事に興味を持ったのが人生を元気に来られたのだと思ってます。

高校時代の小堀進先生との出合いから長い時がたちました。これからもご指導下さいますようによろしくお願い致します。これからの発展をお祈りします。

岡田三枝子　41回展　会友推挙

「ありがとう」

昨年12月頃のある日、白日会事務所に会費の件でデンワすると、「あなたは95回展で八咫烏賞、金メダルと賞状がいただけますよ」とうれしいニュースを聞きびっくり、それでは、がんばって良い作品を描かねばとデンワのお相手の方と大笑いしました。

早いものでもう50年、私が初出品したのが大学生、今は78才、ふとしたきっかけで絵をはじめました。父が好きな絵を学ぶと油絵の道具を求めたのですが教育長という仕事がら時間の余裕なく色鉛筆のスケッチがやっと、それではと私が4号に花の絵を描きました。それをたまたま近所に越してこられた白日会々員の石崎五郎先生が見て下さり、いいセンスあるとおだてられ、描きに描いて、41回展に50号『小道』を出品初入選しました。以後毎年出品、何回か受賞会員になり、もう両親は大喜び暖かくみまもってくれたのも、やめずにすんだ一つの要因かもしれません。途中結婚、二人の子供を出産、平松譲先生には、バギーに乗った子を連れ白日会場にいますと、「いいモデルがいますね」と、ニコ〳〵頭をなでて、私の作品を批評して下さいました。富山芳男先生、笹口淳先生他、色々な先生方々にお世話になりました。一年一回、前は上野、今は六本木の国立新美術館、若き日は、一人でスイ〳〵上京出来ましたが今は無理、むすこ、むすめ、孫達と楽しみに、作品鑑賞に出向いています。斎藤秀夫先生には、又みんなで来たねと、やさしい言葉をかけて下さり、いつも作品の批評をお願いしています。本当に嬉しさいっぱいです。現在病気療養中の主人（広井良昌）も、数年前まで白日会々員で白日賞もいただきました。私の八咫烏賞を見、お母さん続けていてよかったねと、とても喜んでくれました。かげながらの応援に心から感謝しています。ベットの上で花、アトム等スケッチしていますが、早くよくなり絵筆が持てればと願っております。ふりかえるとまだ〳〵色々な思い出がよみがえってまいります。先生、仲間、家族他多くの方々に出合い、はげましと勇気をいただきました。これを糧に、健康で、明るく、楽しく考えなやみ、前進、大きな夢を持ち、全力投球出来るよう努力したいと思います。あっという間の50年、描けたすべての環境に深く感謝しております。本当にありがとう。

▲笹口淳先生の個展会場にて

（左から）広井良昌　岡田三枝子　笹口淳
他、ご家族の皆さん　　※写真提供・岡田三枝子

小沢 一廣　41回展　会友推挙

「感謝」

私は二十才時に小堀進先生の弟子であります。中学時代の恩師茂木直喜先生に、一生の趣味を持った方が良いと言われました。もともと絵を画く事が好きだったので直ぐに現在の千葉県香取市、茨城県潮来市の水郷地帯にある、水彩画グループ新水会に入会し、諸先生方からご指導を頂きました。写生会互評会で褒めてくれ柴田先生から長く続ける事が大事だとスケッチした作品を頂いた事を思い出します。月例会を重ね、指導を受けている内、諸先生方から、第三十八回白日展に出品を勧められ、初入選し東京都美術館に、陳列された時は、本当に嬉しかったです。

その後白日会茨城支部に入会し、仕事の合間に頑張り、茨城県展に出品入選、そして第四十一回白日展に会友、第六十回展に、会員に推挙されました。水彩画の先生方から、上手でないけど、面白いと言われました。それから、増々調子に乗り楽しくなりました。

月例会には、小堀進先生を、成田京成駅まで迎えにいく役目となり、車中で色々とご指導を頂きました。写生会には、柴田祐作、大崎善生、茂木直喜、山倉克己、小林晟先生が参加し、大勢の生徒が先生方に、ご指導して頂きました。写生後、小林晟先生宅が割烹旅館でしたので、互評会と懇親会をし、盛り上がる楽しい写生会でした。そして年に、二回位は、古川弘先生、平松譲先生が参加してくれ、ご指導を頂きました。私は五十才台から、仕事が忙しくなり、絵の方が勉強不足となっていました。六十五才台で退任する事になり、念願の日展に挑戦する事が出来、山王会館、日展会館での白日会研究会に参加させて頂き、諸先生方のご指導を受け入選していることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

この度九十五回記念白日展に中山先生を始め、白日会幹部の諸先生、地元水彩画会で、大変お世話になった、柴田先生と一緒に、八咫烏賞を受賞出来ました事、誠に光栄で幸せを感じています。私は今年、喜寿を迎えました。これまで歩んだ、職務と絵画の両立でなく、絵に専念出来る事が、何より嬉しいです。今後も自然の美しさを求めて、傘寿に向かって頑張りたいと思います。

鈴木 正子　42回展　会友推挙

「八咫烏賞を受賞して」

白日会九十五回記念展を心からお祝い申し上げます。

久し振りに白日会七十回記念展の集合写真を見ました。伊藤清永先生をはじめ先生方が大変若々しくにこやかな笑顔で写っており桜の花便りと共に上野の美術館時代が懐かしく蘇って参りました。

重い絵の具箱を持って川口栄先生のアトリエに通い始めましたのが白日会とのご縁の始まりです。先生は当時白日会で活躍されており奥の深い構築力のある実在の世界を描いた作品を発表されておりました。大変感銘し先生の横でキャンバスに向いましたが全く思い通りに絵が描けません。先生の絵を描く厳しい姿勢をつくづく感じた次第です。

一年後に白日会出品をと背中を押され五十号の風景を描き出品致しました。初出品で入選会友推挙の通知を戴き私以上に先生が喜んで下さいまして今日迄白日会で描き続けられました事です。会員迄の道程は長く山あり谷ありの日々でしたが、平松譲先生、柳沢淑郎先生、当時の先生方は分け隔てなくご自身が気が付きますとご指導をして下さいました記憶があり厳しくも心暖かい先生方でした。

会員になりまして会の事務所の仕事をする様になりましたが六十回展頃にも事務所にはコピー機等事務機器がなく全ての仕事が手作業です。暗く寒い都の美術館の搬出入の机にて乙黒先生の指導により入選者名簿作成の為ガリ切りを行い先生がガリ版刷りの仕事を行いました事は今の白日会の方達は想像もつかない事だと思います。

この度の白日会第九十五回展が盛会の裡に終了致しました。今後の白日会の発展をお祈り致すと共に先生方や会員の皆様方と共に歩んで参りたいと存じます。

奥村 憲　44回展　会友推挙

「八咫烏賞を頂いて」

この度は、八咫烏賞を頂きありがとうございます。四十五回記念展からの記念集を見ながら、諸先生との思い出を書き

出してみました。そして、自分が五十四年も白日会に出品できましたのも、会場での先生方からの批評のおかげと思います。又、三十、四十代は神奈川、五十代関西、六十代静岡の各支部に所属し、多くの会員の皆様を知ることができました。

神奈川支部は、私の師である川口栄先生を代表に、深澤孝哉先生、野田弘志先生、他七十余名が所属し、東京から平松譲先生、中山忠彦先生をお呼びしての作品批評会は充実していました。川口先生から「会を休んだら大作は描かなくなるよ」深澤先生から「仕事が多忙の時は、通勤時、服の中で指で描けば良いよ」野田先生からは「腕で描くな、小さくても現場で描きなさい」の助言を頂き、その後の制作する上で大きな心の支えに成りました。

旧上野美術館時代の思い出は、三月十二日搬入日が大雪で、受付扉全開で寒く火鉢を囲んだり、自分達で作品の三段掛け展示を行い、終了後アメ横に繰り出した思い出があります。展覧会は、入選者名が毛筆で美術館裏の掲示板に張り出され、美術館階段を上がり、白日会垂れ幕前で記念写真、入館してすぐが展示室でした。会場内事務所には水彩連盟、三軌会他の美術団体からの御祝酒が並んでいました。諸先生方は、煙草をふかし、その酒を飲みながら、私が顔を出すと「おい、こちらに来て飲みなさい」と言われました。今の展覧会では想像もつかない会員交流の風景でもあったと思います。また、私は愛知県出身で、名古屋展準備を手伝いながら、西田耕作先生の人柄と支部活動の大切さを学びました。

私は、これからも住んでいる信州伊那谷だからこそ描ける日本のアルプスの山々を描いていきたいです。

宮﨑 郁夫　44回展　会友推挙

「白日会展初出品の頃」

私が白日会に初めて出品したのは第44回展でした。当時、埼玉県北部の本庄・児玉域から二十数名の方が白日会の会員・準会員・会友として出品しておりました。第70回展の図録までは埼玉支部名が記載されていました。

一九四五年の終戦後、本庄・児玉地域で白日会の会員であった古川弘先生、堀英治先生、山田鶴左久先生、金井邦松先生を中心とした「麓原会」と云う絵画グループが結成されました。一九四八年には第一回目の公募展を本庄高等女学校の講堂で開催し、１０９点の陳列がありました。第二回展から第十二回展までの間には賛助出品として（順不同で）安井曾太郎先生、中沢弘光先生、池部釣先生、赤城泰舒先生、羽石光志先生、富田温一郎先生、小堀進先生、寺内萬治郎先生、斎藤与里先生、山口敏男先生、伊藤清永先生、四方田草炎先生の作品を出品して頂きました。また、麓原会の写生会にも小堀進先生、牧原万之助先生、平松譲先生、村上鉄太郎先生に参加して頂き指導して頂きました。

麓原会の活動は現在も続いています。現在会員・会友で六十名です。公募展も小学校の体育館をお借りして、昨年は第70回展を開催しました。一般応募作品を含め１５２点の作品を陳列しました。会の運営は全て事務所が担当し、公募展、会員展、研究会等を分担して実施しています。

しかし、白日会の出品者は年の経過とともに亡くなったり、退会したりで現在麓原会からの出品者は二名となり、本庄地域からの出品は私だけになってしまいました。それでも麓原会の活動の根底には白日会の先生方からの教えが現在も受け継がれていると確信しています。

茂又 好文　45回展　会友推挙

「出石へ」

かねてからの憧れであった出石の伊藤清永記念館を訪ねる旅をようやく一昨年の秋に実現することが出来ました。

いわゆる街並保存の指定を受けた静かな街にその記念館はありました。

「磯人」「朝のノートルダム」「カシミール錦」「オランダの裸婦」「マジョリカ壺のバラ」など伊藤清永芸術のシャワーを浴び、色彩の海に浸る思いです。中でも「オランダの裸婦」は繊細な色線を重ねて描き出される豊麗優美な裸婦像で、まさに発光する裸婦像でした。そしてその内なる生命をもほとばしらせながら……。「マジョリカ壺のバラ」はその形は定かではないですが、光と色彩に溢れ生き生きと輝いています。

一点、一点じっくり見ていると、出るのは溜息。自からの無力感を募らせ、ただ、ただ憧れだけが大きくふくらむのを覚えました。

そして、今年、二〇一九年三月の白日会第九五回記念展と同時開催の伊藤清永

展、かの出石の伊藤清永記念館の代表的な作品が展示され、再会することが出来嬉しい限りでした。

編集部から

第60回記念展の記念品は「白日会総出品目録（第1回展～第59回展）」でした。序文には「目録をたどりながら、今さらながらに白日会が多くの諸先輩の手で受け継がれ今日に至っていることの感慨を新たにする。」とありました。八咫烏賞は会友推挙以来50年の連続在籍での受賞ですので、初出品を考慮しますと人生のほとんどが白日会と共にあった方々です。その多くの方が初出品当時の思い出を書いてくださっています。30歳で会友推挙となっても80歳になってようやく頂ける賞です。今回は全会友推挙者の10％くらいが該当者となりました。今後はその割合が低下する傾向にあります。

ご寄稿頂きました文章を拝読すると、昔の先生方や先輩のお名前が挙げられ、その当時の方々の、そしてご本人の、今では忘れられ、あるいは伝わっていない数々の陰日なたのご尽力やご苦労、愛し信ずるところが挙げられ、またそのことを伝えたいという思いが伝わってきます。そこにはまた創立会員の中沢弘光先生の人柄から生じた会風の消息をも感じます。

貴重な当時の写真もお寄せ頂いた方もあります。（残念ながら紙面の都合にて掲載できなかった写真もあり、お詫びします）

最後になりましたが、ご寄稿くださった受賞者の皆様には、この場を借りて、あらためてお祝いと共にお労い申し上げます。（編集）

※現代仮名遣いとは違うところもありますが、趣を尊重し原文に添って掲載しております。
※顔写真につきましてはご提供いただきました方のみの掲載となります。

白日会アルバム

▶伊藤清永先生　文化功労賞祝　平成3年11月30日
手前：伊藤清永先生　伊藤愛子夫人
後ろ左から：下時治郎秀臣　堂園和男　松尾彰滋
阿部政義　河田安市　※写真提供・河田安市

▲伊藤清永先生文化勲章叙勲祝賀パーティーにて　平成8年
左から：草壁隆　伊藤清永先生　石倉豊　※写真提供・石倉豊

▲第69回白日会展にて柳沢先生と庶務係一同　平成5年
左から：犀川愛子　金光緑　立川和枝　柳沢淑郎先生　田中絵美　笹岡弓子
鈴木正子　※写真提供・鈴木正子

白日会アルバム

▲小堀進生誕百年記念　講演会・シンポジウム　　平成 16 年

左から：（コーディネーター）小沢一廣　（パネラー）柴田祐作　茂木直喜　小林晟　塚本新一郎

※写真提供・小沢一廣

▲第 51 回白日会展の上野旧都美術館　昭和 50 年

※写真提供・河田安市

◀現在、本展入口に掲げられている白日会の幟が、上野旧都美術館の柱の後ろに伺える。▼

▲白日会五十年記念展　全体写真　　昭和 49 年

※写真提供・城田美子

白日会アルバム

◀三重県熊野写生で中沢先生の宿にて　昭和36年頃
右から：岩月光金　長井幸一　宮原鹿蔵　中沢弘光先生　草壁隆
※写真提供・草壁隆

▲中沢先生を囲んで　上野の黒門会館と思われる　時期不明　　※写真提供・西川加耶子

※編集部より：記載されていない方のお名前や時期など、こちらの写真の詳細をご存じの方は、白日会事務所までお知らせください。
100回展に向け、白日会の歴史を物語る資料の整備をしております。こうした過去の貴重な写真や情報などをお持ちの方は是非ご協力ください。

第95回展　総会概要

令和元年（２０１９）８月４日　16時～精養軒
会員56名の出席と会員１７２名の委任状により、以下のことが承認されました。
同日11時より行われました常任委員会を経て、95回展事業報告、95回展決算報告、96回展事業計画、96回展予算が承認されました。※会員には総会報告として別紙が郵送されています
以下決定事項を報告します。

副会長の任期満了について

一昨年80歳で常任委員の定年を迎えました副会長の深澤孝哉先生と同じく副会長の峯田義郎先生に、95回展までの副会長の任期延長をお願いしてきました。本総会にて任期満了となり顧問になられました。なお深澤孝哉先生には今までの当会への功績をもって、最高顧問の称号が与えられることになりました。
なお、現在は副会長を置かずに、山本眞輔先生に中山会長の補佐をお願いすることになりました。
峯田義郎先生の後に、池川直先生が彫刻部の新常任委員となりました。

第96回展　審査員

先の常任委員会にて、96回展の審査員を決定しました。（常任委員は全て審査員）
絵画：　鷺悦太郎　曽剣雄　西谷之男
彫刻：　峯田義郎（顧問）　柏原花子　広沢邦子　小関良太

各賞の名称表記の変更と新賞

各賞の記載がフルネーム表記に変わります。例・中沢賞→中沢弘光賞　伊藤賞→伊藤清永賞等。
また96回展より、「平澤篤賞」が新設されます。昨年10月にご逝去されました平澤篤会員の奥様の平澤昌子様からの申し出により、「会賞」の副賞として毎年３万円の賞金を頂くことになりました。新人の写実系作家が対象者となります。

事業計画表

令和元年 5月	5日～16日	第7回白日会テッサン展（銀座　永井画廊）
11月	6日～12日	―時代の先駆者達　明日の白日会展―（洋）（日本橋髙島屋）
	17日	秋の総会（上野精養軒）
12月	18日～23日	三越選抜展（日本橋三越本店）
令和二年 2月	2日	研究会（今回は1回のみです）（日展会館）
3月	18日～30日	白日会展（国立新美術館）※詳細は左記参照
4月	7日～12日	名古屋巡回展（愛知県美術館ギャラリー）
6月	18日～23日	関西巡回展（あべのハルカス近鉄本店ウィング館8階）
	17日～23日	近鉄選抜展（白濤会）（あべのハルカス近鉄本店タワー館）
	27日～7月26日（予定）	特別巡回展（豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―）
7月	5日	研究会（日展会館）
8月	2日	総会（上野精養軒）
	日付未定	明日の白日会展（日本橋髙島屋）
9月	6日	研究会（日展会館）
12月	日付未定	三越選抜展（日本橋三越本店）

第96回白日会展スケジュール

会期：令和2年3月18日(水)～3月30日(月)　会場：国立新美術館2F（2A・2B・2C・2D）

3月8日（日）	搬入
9日（月）	搬入
10日（火）	鑑審査（入選・落選）
11日（水）	鑑審査（賞選定〔会〕・推挙）・発表事務
12日（木）	部屋割り・陳列準備
13日（金）	名札　／　作品移動
17日（火）	陳列・賞選定〔特・法〕・巡回展選定
18日（水）	開会・授賞式（美術館講堂）懇親会（上野精養軒）／　選外搬出
24日（火）	休館日
26日（木）	公開クロッキー講座（2部制）
30日（月）	閉会（15：00）　／　作品撤去
31日（火）	搬出　〔4月1日(水)　彩美堂業者搬出〕

事務所報告

◆会報がA4カラーとなります。今回は記念展特別号として24Pですが、96回展以降は8～16Pを検討しています。

◆神山晃一会員が事務補助員より事務所員となりました。

白日会事務所

展覧会記録―個展・主なグループ展

平成三十年八月

第2回莧の会　髙島屋大阪店
中山忠彦　池田良則　大木基彰　児玉健二
佐々木和子　佐々木麦　土井原崇浩　阪東佳代
堀井　聰　前芝武史　山本桂右　李　暁剛
花の饗宴展　横浜　ギャラリーアーク
岡田高弘　関口雅文　寺久保文宣　広田　稔
和田直樹

九月

アトリエ21三人展　～春の能登紀行
横浜再発見！～　横浜髙島屋
岡田高弘　広田　稔
第40回北海道ロビー絵画展
新宿　ギャラリー絵夢
髙梨芳美　神山晃一
長船善祐 油彩画展　松山三越
坂本忠夫　油彩画展
大阪　あべのハルカス近鉄本店

十月

福井欧夏　油彩展　松坂屋名古屋店
江口武志作品展～祈りの情景Ⅱ～
長崎浜屋
2018白日 星の会
白日会若手作家洋画展
田島美術店　AOYAMA
河野桂一郎展　美しい女性たち
日本橋・大阪・名古屋・岐阜髙島屋
西谷之男油彩画展
～故郷の光と風そして移ろい～
静岡カントリー濱岡コース&
ホテルカルチャーフロア
まほろば佐久に咲く素描展
新宿　ギャラリー絵夢
岡田高弘　村山きおえ　広田　稔
関口雅文展　爽
銀座　並木通りギャラリー
皎の会　大阪　梅田画廊
井上慎介　小木曽誠　木原和敏　熊谷有展
児玉健二　佐々木麦　関口雅文　寺久保文宣
広田　稔　堀井　聰　李　暁剛　和田直樹
白田彩乃展　鎌倉　ギャラリー壱零参堂
高村喜美子展　横浜　仲通りギャラリー
長船善祐　油彩画展　広島三越

十一月

長船善祐　油彩展　大分　トキワ本店
静岡伊勢丹　東急百貨店吉祥寺店
中山忠彦―永遠の美を求めて―
千葉県立美術館
広田 稔展　横浜　ギャラリーアーク
中村幸枝　油彩画展
大阪　市立ギャラリーいけだ
画業50年 第1回 青島紀三雄 水彩画展
松坂屋静岡店
100枚のクロッキー展
FEI ART MUSEUM YOKOHAMA
岡田高弘　広田　稔

十二月

犀川愛子　回顧展
福岡　コスメイトゆくはし

平成三十一年一月

池田良則　油彩展　東京　画廊岳
小林聡一油絵展　日本橋三越本店
石倉豊〈花・人・風景〉展
三重　ラパティスリークロードリュッツ
～光と影の詩情～長船善祐　油彩画展
小倉井筒屋　山口井筒屋

二月

久保尚子展～花曼荼羅～
大阪　あべのハルカス近鉄本店
冬の山形紀行　ATLIERE21
横浜　ギャラリーミロ
岡田高弘　広田　稔
～光と風の詩情～長船善祐　油彩画展
新潟三越
陽光のイタリア　長尾浩一油絵展
横浜髙島屋

三月

～光と影の詩情～長船善祐　油彩画展
札幌三越
阿方 稔展　銀座　アートもりもと

四月

北川直枝　テンペラ画展
岡山　倉敷天満屋
有田巧―熊本を描く―展
銀座　永井画廊
塚原貴之　油絵展　小田急・新宿店
写実を超えた詩情　長船善祐　油絵展
丸善　丸の内本店

令和元年五月

植物考―香満衣―　日本橋髙島屋
伊藤晴子　和田直樹
洋画特集　白日会精鋭展　大丸京都店
現代作家美術展　新宿　ギャラリー絵夢
関口雅文　寺久保文宣
広田 稔出版記念展　銀座　柳画廊

六月

魅せる女性像　韮崎大村美術館
中山忠彦
Sei　伊藤清永×伊藤晴子親子展
豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―
杉本幸江　個展　銀座　光画廊
古いけど、新しい…池田 茂個展
銀座　新井画廊
Artwall Miyazaki 五ケ瀬展
―徳丸晃の世界―　五ケ瀬町自然の恵み資料館

長船善祐　油彩画展　長野　はら美術
長崎浜屋　8階美術ギャラリー
白日会南日本絵画同人展
宮崎県立美術館
第16回青森白日グループ絵画展
青森市民美術展示館
第8回白日会静岡支部小品展
静岡　ギャラリーえざき

七月

斎藤秀夫　油絵展
京王百貨店　新宿店　京王ギャラリー
長船善祐　油彩画展　松山三越
塚原貴之　油絵展　あべのハルカス近鉄
本店タワー館11階アートギャラリー
児玉健二　油彩画展
渋谷・東急本店　美術画廊
静岡水彩展
静岡市民文化会館

八月

吉成浩昭展　横浜　仲通りギャラリー
井阪仁　油絵展　日本橋三越本店

※紙面の関係上、会員の個展及び主なグループ展のみの掲載となっておりますが、ご了承ください。ホームページでは白日会事務所にお知らせくださった在籍者（会友以上）の展覧会はすべて掲載しております。

ホームページの展覧会掲載について

白日会ホームページにある在籍者（会友以上）の展覧会情報に掲載をご希望の方は、白日会事務所まで展覧会のDM等を郵送またはメールにてお送りください。

訃報

平澤　篤（会員）　平成30年10月10日逝去
小島俊男（特別会員）　平成30年11月7日逝去
森棟　正（会員）　平成30年12月21日逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平澤　篤
alla Veneziana

小島俊男
パラス・アテナ

森棟　正
夏の女

お知らせ

春の研究会

令和二年二月二日

午前十時より午後五時まで鶯谷日展会館にて行われます。

参加費は一人五千円（昼食等含む）・見学の方も同じです。

受付締め切りは午後二時となります。二階受付順となりますのでご了承ください。

日展会館　東京都台東区上野桜木二―四―一
電話　〇三―三八二一―〇四五三

【交通のご案内】
JR「鶯谷駅」北口より徒歩五分・地下鉄千代田線「根津駅」より徒歩一五分
http://www.nitten.or.jp/about/kaikan.html
※日展会館には駐車場はありません。車で来場の方は必ず近くの有料駐車場に駐車してください。

会費の納入について

会費は九六回展分を十月より十二月末日までに同封の郵便払込用紙にて納入をお願いいたします。郵便払込のみの納金となります。

二年以上滞納し白日会への連絡がない場合は原則除名となります。

退会届を事務所に提出しない場合は滞納扱いとなります。

詳しくは事務所まで

編集後記

この会報第58号は、第九十五回記念展特別号として、白日会としては初めてとなるカラー印刷にてB5版からA4版に変更して制作しました。現在の社会的状況に合わせたとも言えるので、今後もその方針で行こうと思います。また白日会の招待者の方々にも本会報をお送りでき、ホームページなどでも自由に閲覧できる互換性あるものとし、多くの方に当会をより良く知って頂ける場となればと思います。

今回の会報は、基本的な編集方針は従来のままとしてカラー化し、受賞作品は全て掲載、特に記念展報告と八咫烏賞関係の掲載に多くのページを割きましたので24ページとなりましたが、年間を通じた選抜展他の記事は殆んど割愛せざるを得ませんでした。来年のページ立てはもっと少くなると思います。また会報の取材編集、版下製作と校正は事務所内部のお手製で行っておりますので、誤植や不備、行き届かないところがありましたら、予めお詫び申し上げますと共にご容赦願います。また総会報告は会報と分離して会員に別刷りして郵送しました。会報のリニューアルに関するご意見やご感想をお待ちしています。

白日会事務所

発行　白日会事務所
寺久保文宣　阿辺隆　小河美智子　神山晃一
久保尚子　吉田純子　八咫烏賞担当　西沢貴子
印刷　六光社